「骨髄腫関連疾患患者の臨床データおよび治療経過に関する疫学観察研究」のお知らせ

血液疾患の治療は近年の分子生物学的研究の発展に合わせ、数多くの新規薬剤の登場により著しく進歩しています。祖の中でも多発性骨髄腫においては、近年新規薬剤が次々と登場し、国内外において優れた治療成績が発表され、また、今後上市される予定の数多くの有望な新薬の開発が進展してきています。今後の我が国における多発性骨髄腫治療のさらなる進歩のためには、日本人の疫学からの治療成績・予後に関するまとまった情報を創出し共有していくことが重要な課題です。このような背景から、関西における多発性骨髄腫の疫学・治療成績に関するデータベースを作成し、関西地区における骨髄腫関連疾患に関する疫学・治療成績・予後についてまとめる研究が計画され当院も参加しています。

＜研究対象＞
当院で骨髄腫関連疾患（意義不明の単クローン性高γグロブリン血症, MGUS、くすぶり型骨髄腫、多発性骨髄腫、非分泌型骨髄腫、骨の孤発性形質細胞腫、髄外性形質細胞腫、多発性形質細胞腫、形質細胞白血病）と診断された患者さん

＜研究期間＞2027 年 7 月 31 日までを予定しています。

＜研究内容＞
年齢、性別、既往歴、合併症、最終経過観察日、転帰、診断日、診断名、治療開始日、血液検査、骨髄検査などの検査結果、治療内容、副作用、病勢進行の有無などのデータを診療録より収集します。

＜主任研究者＞
大阪大学大学院医学研究科　血液・腫瘍内科学　柴山　浩彦

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は，研究代表者に情報を提供します。また、学会や出版物として公表することがありますが、いかなる場合でも個人情報が漏れることはありません。プライバシーは守られます。 本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。

本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。研究が始まった後でも自由に参加を取りやめることができますのでその際も担当医師にお伝えください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお伝えください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 12 月 7 日

血液内科　統括部長　森口　寿徳